

**【適性検査対策】思考力養成講座**  
**小5・6生対象講座**

企画・制作 JESDA/ 日本教育システム開発協会

古谷広高

# 小5・6年対象【適性検査対策】思考力養成講座

□企画・制作 JESDA/ 日本教育システム開発協会

## ■ 実施目的

全国の公立中高一貫校の過去問や、それらをもとにアレンジされた問題を使用して適性検査型の問題への対応力を身につけるだけでなく、様々な問題にも応用できる思考力を養成するための講座です。

## ■ 講座内容

実施回ごとにテーマを設け、問題の解き方だけでなく、問題の捉え方や考え方に重点を置いた講義を行います。また、適性検査ならではの問題を使用して、効率的かつ効果的なアウトプットのトレーニングも行います（アウトプットのトレーニングが十分でないと空欄の多い答案、設問に適した形での解答が書けない、ミスに気づきにくいなどの問題点が見られます）。

## ■ 実施会場

森上教育研究所セミナールーム HP：<http://www.morigami.co.jp/company/>  
(JR 市ヶ谷駅より徒歩10分 地下鉄市ヶ谷 A3 出口より 徒歩8分)

## ■ 講座費用（表示価格は税込です。）

月4回の講義で21,600円となります。講座費用は、下記口座に振り込んでいただくか参加日に直接お持ちください。

\*お振込みの場合の手数料は、お客様負担となります。ご了承のほど宜しくお願い申し上げます。

\*領収書が必要なお客様は、お持ちいただいた際に、お申し付けください。

## <振込み先>

ゆうちょ銀行 〇一九店 当座 0717422 日本教育システム開発協会

## ■ お申込み方法 ※途中入会可 見学も随時受け付けています。

必要事項①～④を明記の上、下記メール アドレスにメールにてお申込み下さい。

## <必要事項>

① 参加者名 ② 学年 ③ 保護者様名 ④ 電話番号

## <お申込み先メールアドレス>

E-mail：[jesda@ops.dti.ne.jp](mailto:jesda@ops.dti.ne.jp)

## ■ 開講日時

毎週水曜日 17:30～19:30

## ■ お問い合わせ

JESDA/ 日本教育システム開発協会

TEL：03-3384-8991 FAX：03-3380-1973

E-mail：[jesda@ops.dti.ne.jp](mailto:jesda@ops.dti.ne.jp)

## ■ 8月の実施内容

### 第1回 8月1日(水)

#### ◆資料分析問題(工業や農業 その1：工業)

資料分析問題では、工業や農業がテーマとなった問題が出題されることがあります。今回は、ただ資料を読み取るのではなく、工業が発展した地域、農業が発展した地域の特徴や背景なども合わせて考えながら取り組んでいきます。夏だからこそ、テーマを絞って、少し深く掘り下げ、さまざまな問題について考えていく練習を行います。

### 第2回 8月8日(水)

#### ◆資料分析問題(工業や農業 その2：農業)

資料分析問題では、工業や農業がテーマとなった問題が出題されることがあります。今回は、ただ資料を読み取るのではなく、工業が発展した地域、農業が発展した地域の特徴や背景なども合わせて考えながら取り組んでいきます。夏だからこそ、テーマを絞って、少し深く掘り下げ、さまざまな問題について考えていく練習を行います。

### 第3回 8月22日(水)

#### ◆資料分析問題の捉え方 応用編その2

適性検査では、学校の教科書などでは見られないグラフなどが出題されることがあります。このようなグラフでも、これまでに習ったグラフの考え方が変わりません。しっかりと学習し、理解を深めておくことで、本番でそのようなグラフが出た時にも、焦ることなくしっかりと読みとることができるよう、少し特殊なグラフが使われた資料分析問題に取り組みます。

### 第4回 8月29日(水)

#### ◆夏休み特別企画 理科実験

適性検査や私立中学入試などでも出題されたテーマを用い、夏だからこそ楽しめる理科実験を行います。内容は秘密です！

## ■ 保護者の皆様へ

公立中高一貫校や適性検査型入試を実施している私立の受検を考えられており、知りたいことや疑問などがあれば、面談等の対応も可能ですので、お気軽にお声掛けください。

## ■ 講師プロフィール

古谷 広高（ふるたに ひろたか）

広島大学大学院工学研究科 応用有機化学 修士課程修了

メーカー勤務を辞め、この業界に転職。現在は私立中学受験、公立中高一貫校受検の教材やテストの制作・販売している出版社に勤務。メインは営業であるが、時間の許す限り教壇にも立ち、中学受験（検）から大学受験まで生徒の指導も行っている（担当は理系科目全般）。

自分を必要としてくださる方々に、少しでも応えることができるようにという思いで、日々奮闘中。本人の才能や努力とは関係なく、環境と人に恵まれているというだけで、日々すばらしい経験を得ている。

**【適性検査対策】思考力養成講座 開講記念無料講演会 ～ 適性検査の対策とは ～**  
プログラム：「今年の入試で何が問われたか」若泉敏（スクールETC主宰）  
「このように対策しよう」 古谷広高（JESDA）  
日時：2018年4月22日（日）10時～12時  
場所：森上教育研究所セミナールーム

当日の講演をyoutubeでお聴きいただけます。

<https://youtu.be/N3UQFUzCTLA>

2018年4月22日開催  
開講記念無料講演会 資料

# 都立中高一貫校の受検について

～平成 30 年度の受検状況と適性検査の対策について～

JESDA/日本教育システム開発協会  
古谷 広高

## ◆都立の受検状況

学 校 名	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度			
	受検者数	倍率	受検者数	倍率	受検者数	合格者(募集)数	手続き者数	倍率
武蔵高等学校 附属中学校	564	4.70	498	4.15	508(男 277、女 231)	120(男 60、女 60)	111(男 57、 女 54)	4.23
小石川中等 教育学校	929	5.81	920	5.75	946(男 512、女 434)	159(男 79、女 80)	133(男 63、 女 70)	5.95
富士高等学校 附属中学校	569	4.74	640	5.33	591(男 267、女 324)	120(男 60、女 60)	113(男 56、 女 57)	4.93
大泉高等学校 附属中学校	839	6.99	783	6.53	816(男 413、女 403)	120(男 60、女 60)	117(男 59、 女 58)	6.80
三鷹中等 教育学校	1039	6.94	953	5.96	923(男 449、女 474)	160(男 80、女 80)	153(男 76、 女 77)	5.77
両国高等学校 附属中学校	971	8.09	782	6.52	736(男 349、女 387)	120(男 60、女 60)	113(男 55、 女 58)	6.13
白鷗高等学校 附属中学校	948	6.41	914	6.05	914(男 394、女 520)	134(男 66、女 68)	125(男 60、 女 65)	6.82
桜修館中等 教育学校	1006	6.29	943	5.89	878(男 351、女 527)	160(男 80、女 80)	145(男 76、 女 69)	5.49
南多摩中等 教育学校	876	5.48	772	4.83	831(男 404、女 427)	160(男 80、女 80)	156(男 79、 女 77)	5.19
立川国際 中等教育学校	701	5.39	708	5.45	616(男 276、女 340)	130(男 65、女 65)	128(男 64、 女 64)	4.74
千代田区立九段 中等教育学校 A	175	2.19	142	1.78	134(男 57、女 77)	80(男 40、女 40)	(男、女)	1.68
千代田区立九段 中等教育学校 B	631	7.89	660	8.25	647(男 278、女 369)	80(男 40、女 40)	(男、女)	8.09

\* 平成 30 年度から都立白鷗は、適性検査 I・II から適性検査 I～III に変更

\* 上記は一般枠募集の人数

◆年々、倍率は落ち着いてきているが、競争が激化している部分もある。→ 入学辞退者(上位の私立受験組の併願者)が一定数以上いるため。

◆一部の学校を除いて、女子の倍率が高い。公立中高一貫校は、基本的に、男女同数の合格者となるため、男子に比べ、女子は競争が激しい。

## <受検本番までに必ず直しておくこと>

### 1. 話し言葉

普段の会話やメールのやり取りのように、記述が話し言葉になっている。試験や作文を書く場合、話し言葉は使わないこと。

<例>

けど→けれど(も)    じゃない→ではない    ちょっと→少し  
すごい→すごく等    いろんな→いろいろな    していなくて→しておらず  
\*ただし、会話文の穴埋め問題などでは、可の場合もある。

### 2. 常体と敬体の統一

作文や記述問題では、必ず敬体・常体のどちらかに統一すること。

\*先のことを考えると、常体「だ・である」を使うのが望ましい。

### 3. 句点の書き忘れ、「。」が「.」になっている。

記述問題では、必ず句点「。」を書くようにする。また、句点はきっちりと「。」で書くようにする。

\*ただし、空欄にあてはめる問題の場合は注意が必要である。句点が書かれている場合と、書かれていない場合がある。また、文の途中の空欄を答える問題では、句点は書く必要がない。

### 4. 箇条書き

記述問題で、文頭に「・」を書いて、箇条書きで答える生徒がいるが、特別な指示がなければ、箇条書きで答えない。

### 5. 挿入( )での付け足しや( )書きの補足、二重線での修正

付け足しや( )書きでの補足、二重線での修正するのではなく、必ず書き直すようにする。本番の問題用紙にも「答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。」との指示がある。

### 6. 解答欄をはみ出している

決められた解答欄に収まらず、外に飛び出して書いている。このような解答を書いているのは、用紙の使い方が悪い生徒、文章をまとめられずだらだら書いてしまう生徒によく見られる。

### 7. 理由を問う問題

理由を問っている問題は、「〇〇だから。」や「〇〇のため。」などの形で結ぶようにしなければならない。

### 8. 説明させる問題

理由を問っている問題ではないので、「〇〇だから。」のような理由表現で答えないようにする。

## 9. 文の書き出しでの「なので」「たり」「ですが」の使用

文の書き出しに「なので」を使う生徒が非常に多いが、この使用法は誤りである。「今日は雨なので、部屋で本を読もう。」のように、文と文をつなぐようにして使う。また、「～たり」を、「今日は野球をしたり、サッカーをして、一日中遊んだ。」のように1回だけ使って文を書いている生徒が非常に多い。正しくは、「今日は野球をしたり、サッカーをしたりして、一日中遊んだ。」のように、くり返して使う。

## 10. ら抜き言葉

会話（文）などでは、普通に使われているが、解答を書くときには、必ず正確に書くこと（教科書などでは、使用されていない）。

食べることができる：「食べれる」ではなく、「食べられる」と書く。

見ることができる：「見れる」ではなく、「見られる」と書く。

**これらは、実際に減点になるかどうかはわからない。しかし、見逃してもらえないという希望的観測ではなく、減点になる可能性をなくしておくことが重要。**

## <普段の学習で気をつける点>

1. 学校で習う範囲の内容は、必ずできるようにしておく。
2. 解ける問題ではなく、解けない問題に取り組む。
3. 間違った問題について、しっかりと分析する。
4. わからないことは、まず自分で調べる習慣を身に付ける。

## <本番に向けて>

1. 比較的分母の多い模擬検査（enaの模試、栄光の模試、公中検など）を受検する。
2. 適性検査型入試を実施している私立を受検するかどうか。



## ◆適性検査は、このように対策しよう！

1. 条件整理や場合分け、この力を鍛える！（別紙の問題も合わせて見てください）

一見、算数の文章問題のように感じるかもしれませんが…本質は条件整理！計算自体は、まったく難しくない！計算して答えを導ける状態まで、条件を整理できるかどうかポイント！

	地球		ある星
通常の1年の日数	365	通常の1年の日数	
うるう年のときの日数	366	うるう年のときの日数	
太陽の周りを1周するのに必要な日数	365.24	太陽の周りを1周するのに必要な日数	
1年で生じるずれ（日数）	0.24	1年で生じるずれ（日数）	
4年で生じるずれ（日数）	$0.24 \times 4 = 0.96$	( ) 年で生じるずれ（日数）	
うるう年での調整でのずれ	$1 - 0.96 = 0.04$	うるう年での調整でのずれ	
100年で生じるずれ（うるう年25回）	$0.04 \times 25 = 1$	( ) 年で生じるずれ（うるう年( )回）	

### <地球>

1年で0.24日ずれが生じる。これは、ちょうど1周するまで、あと0.24日たりていない状況。4年で0.96日ずれが生じる。これは、ちょうど1周するまで、あと0.96日たりていない状況。そのため、4年に一度うるう年(366日)を設定。これで、ちょうど1周するまでに足りない分を補っている。ただ、ここでも、0.04日のずれが生じている。これは、いままでとは逆で、1周したところから0.04日分だけ進んでいる状況。うるう年1回でこのずれが生じるので、25回で1日分進み過ぎとなる。そのため、100年に一度うるう年をやめて、進み過ぎる分を調整している。

同じように、ある星について考えてみると、それほど難しい問題ではないことがわかる。

**条件整理や場合分けは、すべての問題を考える上で、非常に重要である！**

では、どのようにして、条件整理や場合分けの力を鍛えるのか？

- ① 答えるべき内容をしっかりと捉える練習
- ② 問題解決にいたる思考のフローチャートを自作できるように練習

## 2. グラフの意味を考える！

そもそも、グラフとは何のために用いられているのか？

適性検査では、これまでに棒グラフ、折れ線グラフ、帯グラフ、円グラフ、レーダーチャート、プロット図など、さまざまなグラフが使われている。

**伝えたい内容や目的によって、使用するグラフの種類を変えるのが基本！どのグラフを使用しているかによって、問題で伝えたい内容、つまり答えるべき内容が見えてくる。**

**→ 資料分析問題（適性Ⅱの大問2）では各グラフの特性を学んでおくことがポイント！**

## 3. 過去問を使用して、各学校の独自問題に取り組む！

学校によって、独自問題には、大きな違いがあるので、必ず過去問を使用して、その形式に慣れておくことが重要。

（例）都立白鷗

<適性Ⅰ>

白鷗の適性Ⅰは、問題1、2で100字以内の記述（文章読解）、問題3で400字～450字以内の作文となっており、非常に書かせる量が多い。相対的に見て、女子よりも男子の方が、記述・作文が書けない生徒が多いため、男子で白鷗を受検する場合は、適性Ⅰで大きく失点しないように練習しておくことが重要。過去の問題を使用しての練習が効果的（2015年度～2018年度適性検査、それ以前でも、練習に使用できる問題はある）。ただ、この練習における難点は、近くにいる者が採点、指導できるかどうかである。

<適性Ⅱ> (すべて共同作成問題)

大問1は算数系(本質は条件整理と場合分け)、大問2は資料分析問題、大問3は実験に関する問題とここ数年大きな変化は見られない。今後も、この傾向は大きく変化しないと考えられる。大問1は、必ず算数的要素が入っているが、問題の捉え方を失敗すると、点数が伸びない。これまで出題された問題の多くは、計算自体はそれほど難しいものではない。それよりも、問題文に書かれている内容をしっかりと理解し、条件通りに答えを作っていけるかが重要。大問2の資料分析問題では、必ずと言っていいほど、グラフ(特に割合に関するもの)が出題される。この問題では、ただ問題を解くのではなく、グラフにはその目的によって、使い分けられており、そのグラフがどのようなことを表したいのかをしっかりと把握すること。大問3は、実験に関する問題で、与えられたデータをもとに、自分で考えていくという、非常にオーソドックスな問題となっている。ただし、問題で使用されるデータやグラフ、単位は、普段聞きなれないものもあるため、そのようなものに惑わされず、考えることが重要。そもそも、実験とは何のために行うのか、ということがしっかりと理解できているかどうか。

<適性Ⅲ> (平成30年度から導入された)

問題自体は、それほど難しいものではなく、これまでも似たような問題は見られた。しっかりと勉強してきている生徒なら、満点も狙える問題(ただし、今回が初めてのため、次年度以降、どのようになるのかはわからない)。内容は、算数分野のみだが、比較的記述問題が多い。時間が30分であることを考えると、時間との勝負になると考えられる。